



〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:<https://www.omachi-sanpaku.com>
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、大町山岳博物館
友の会の支援により博物館が運営しています。

山と博物館

「山と博物館」は自治会などを通じ全戸配布されるほか、市役所および関連施設で配布しています。また博物館公式 Web からもご覧いただけます。

2020
秋号
第65卷3号

A green circular icon containing the Japanese character '無料' (Free) and the English word 'Free' below it.

表紙の1枚	1	さんばく研究最前線	4・5
・白馬大池と風吹大池の成り立ち		・戦後75年に際して 収蔵資料から見る戦時下の登山	
企画展特集	2・3	－北アルプスに翔けた “小伝令使” 伝書鳩を使った 山岳通信－	
・「雪が織りなす物語」		博物館のひろば	6・7
		付属園だより / 展示・イベントのご案内	8



かさ ふき 白馬大池と風吹大池の成り立ち

太田 勝一

みなさんは、「地質」という言葉を聞いてどのような感想を持つでしょうか。日頃あまり耳にしない言葉なので、何だか分かりにくそうと思う方もいることでしょう。ただし最近は、NHK総合テレビの「プラタモリ」で、タモリさんが岩石や地層を前にして、研究者とアドリブ交じりに解説するのが人気になり、地質に対する垣根が少し低くなつたようです。(これにより、NHKプラタモリ制作チームは、「社会への地質学の普及に貢献した」として、日本地質学会から2017年に表彰されました。)

そこで今回は、北アルプスで最大の湖である風吹大池と白馬大池について、地質的な成り立ちを紹介したいと思います。これらの湖は、地質研究者の間で「白馬大池火山」と呼ばれている第四紀火山の一部です。「白馬大池火山」は半径約10kmのほぼ円形の範囲に広がり、白馬乗鞍岳、風吹岳、稗田山などの五つの山体を構成しています（上図右）※。

白馬大池火山の噴出物は溶岩と火山碎屑岩からなり、噴出時期により旧期と新期に区分されます。旧期噴出物（図の緑色部）

は約80～50万年前に、新期噴出物（図の赤色部）は約20万年以降に形成されました。白馬大池は、新期噴出物の乗鞍岳溶岩と西側に位置する中生代ジュラ紀の地層との間にできた凹地に水がたまつたものです（堰止湖）。風吹岳は新期噴出物のカルデラ内に出現した溶岩ドームであり、西側に位置するカルデラ壁との間の凹地に風吹大池が形成されました。

このようにして北アルプスの山上に湖が形成された結果、湖畔にチングルマなどの高山植物群落が広がり、希少種であるクロサンショウウオが生息する環境が整えられたのです。また、しゆんげん峻厳な白馬連山は長らく山岳信仰の対象となっていました。新型コロナの感染拡大により、制約の多い日々が続きます。そんな時でも、地形・地質をベースとして生物や山岳文化などに思いをはせれば、「自作プラタモリ」風の山行のイメージ・トーリーニングができるかも知れません。

※) 中野ほか、2002、「白馬岳地域の地質」。(独)産業技術総合研究所。

(市立大町山岳博物館 専門員)

- ◆市立大町山岳博物館は、月曜日と祝日の翌日が休館です。ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館となります。
 - ◆開館時間は、午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）です。
 - ◆毎月第3日曜日の「家庭の日」とその前日の土曜日は、「大町市民無料開放デー（長野県民割引）」として、大町市民の方は観覧料が無料です。また、この日は長野県民の方も団体割引料金で観覧いただけます。今季の該当日は10月17・18日、11月14・15日、12月19・20日です。この機会にぜひご来館ください。
 - ◆次の方は通年、いつでも博物館を無料で観覧いただけます。《障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名／未就学児／大町市内小・中学校に通う児童・生徒／大町市内在住の65才以上の方と高校生》
このほかにも観覧料の各種割引があります。詳しくは受付窓口でお尋ねください。



博物館施設案内
はこちら

雪が織りなす物語

鈴木 啓助

はじめに

真っ白な雪は、とても綺麗で繊細なことから、山部赤人による「田子の浦ゆ 打ち出でて見れば 真白にぞ 富士の高嶺に 雪は降りける」(万葉集)のように歌に詠まれ、絵画や楽曲など広く芸術の素材となり、古今東西で人々に親しまれています。また、山に降る雪は「白いダム」と呼ばれ、水資源としての貴重な役割も担っています。しかし一方では、わが国の日本海側地域のように、大雪によって交通の妨げとなり、雪崩などの災害を引き起こすこともあります。

今回の企画展では、様々な表情を見せる「雪」にまつわる物語を紡いでいきたいと思います。ここでは、企画展の内容を、いろいろな「なぜ?」に答える形式で紹介していきます。

雪は、なぜ、水循環の鍵になるのでしょうか？

海から蒸発した水蒸気が、降水粒子となって山に降り、地面に浸透し川となって流れ下るので、陸上の生物は生きながらえることができます。海に戻った水が再び蒸発するので、水は地球を循環しているといいます。水循環系は、塩分を多く含む海水から純水を作り出す蒸留装置でもあり、重力に逆らって水を高い場所に運び上げる運搬装置もあります。高い場所にもたらされた水は、重力によって再び海まで流れ下りますが、その過程では、人間を含む陸上生物の営みを支えるのみならず、栄養物質や土砂を運び、海洋生物を支え、白砂青松の景観を作り出しています。太陽系の惑星で活発な水循環が起こっているのは地球のみですが、それは、地球でのみ、水が気体・液体・固体の三つの状態で存在できるからです。海からの蒸発は、液体から気体(水蒸気)への変化、山の雪が融けて流れ下るのは、固体(氷)から液体への変化です。水循環系で最も不思議なのが、雲の中で降水粒子ができるのは、水蒸気から固体の雪(氷)結晶ができることです。水蒸気から水滴になるのはとても大変ですが、固体の雪結晶には素早く成長できるのです。この仕組みは、展示で詳しく説明します。

雪の結晶には、なぜ、様々な形があるのでしょうか？

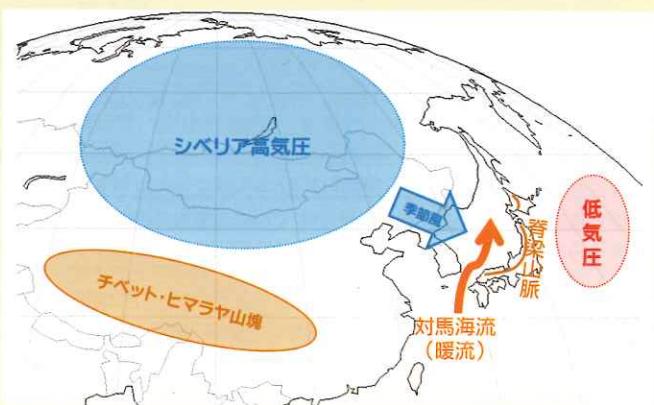
空から降ってくる雪結晶の形をまじまじとご覧になつたことがありますか？雪結晶は、六角形が基本ですが、六角柱や六角板だったりするのみならず、六つの方向に樹枝状に伸びたり、枝の先にさらに六角形ができていた

りと、いろいろな形があることは、昔から知られていました。基本的に六角形であることも古くから知られており、日本でも平安時代には「六つの花」と呼ばれていたようです。江戸時代の古河藩主である土井利位は、雪の結晶を丹念に観察し、その成果を「雪華図説」として出版したことにより、雪華模様が庶民にまで流行したそうです。綺麗な六角形ではあるが、それぞれの形は気まぐれに降ってくるのか、ある規則性があるのかは、なにせ空の中での出来事ですから、長い間わからずじまいでした。

雪結晶のそれぞれの形は、ある規則性によることを世界で初めて示したのが、北海道大学の教授であった中谷宇吉郎です。中谷は、温度と水蒸気の量を制御できる装置によって、雪の結晶は、成長する際の温度と水蒸気の量によって決まるこことを明らかにしました。

北アルプスには、なぜ、大量の雪が降るのでしょうか？

冬の間、シベリアでは太陽高度がとても低くなりますから、太陽からの日射量よりも、地面から空に向かう放射量の方が大きくなり、放射冷却が起こります。冷えた地面の上の空気も冷やされ収縮し重くなりますから、シベリアには高気圧が形成されます。重い空気は周りに流れ出そうとしますが、シベリアの南側にはチベット・ヒマラヤ山塊があるため、堰き止められます。冬の間、日本の東側を低気圧が頻繁に通過することや、強い偏西風が吹くことにより、シベリアの寒冷で乾燥した気塊は、東側へと吹き出します。吹き出したところは暖流である対馬海流が流れる日本海です。寒気は、日本海から熱と水蒸気の供給を受けますから、対流性の雲、つまり積雲が次々と生まれることになります。その積雲が山岳にぶつかり強制的に上昇させられるので、それほど標高が高くはなく、比較的低緯度に位置している北アルプスが、世界でも稀な豪雪地になるのです(下図参照)。



北アルプスには、なぜ、氷河が現存するのでしょうか？

北アルプス（飛騨山脈）は、世界の氷河分布域に比べて標高も低く、低緯度に位置しています。にもかかわらず、鹿島槍ヶ岳北峰の北側に位置するカクネ里氷河をはじめとして、7つの氷河が現存しています。それは、氷河が夏に融解する量よりも、冬に涵養される雪の量が十分に上回っているためです。

北アルプスに大量に雪が降る理由は前述しました。雪が降るときの多くは、西高東低の気圧配置（日本の西側に高気圧、東側に低気圧）で北西からの風によって雪雲が運ばれます。つまり、北アルプスでは西側が風上になり東側が風下になります。富山県や岐阜県側に雪雲がある時でも、松本平では晴天のことが多いのもそのためです。北アルプスの西側斜面に大量の雪が降るのですが、北西からの風も強いために、それらの雪は吹き飛ばされて、東側斜面に吹溜まることになるのです。カクネ里氷河をはじめとして、北アルプスに分布する氷河や雪渓のほとんどが、主稜線の東側斜面に分布するのはこのためです。

西側斜面には雪があまり堆積しないので、凍結融解作用により、一般的になだらかな斜面となります（白馬岳が好例）。東側斜面に吹溜まつた雪は、雪崩れて谷底に堆積していきます。吹溜り涵養と雪崩涵養により、多くの氷河や雪渓は維持されています。ちなみに、氷河と呼ぶには「氷体が流動している」ことが必要です。

前述のように、北アルプスは標高も低く低緯度に位置しているため、暖候期の消耗（融解）量も大きくなります。しかし、ほとんどの氷河が主稜線の東側に位置していることが、消耗量を少なくしています（下図参照）。



雪氷を融解させるエネルギーのほとんどは、太陽からの日射に起因します。地面からの熱量も無視できませんが、太陽高度が低い寒候期には融けずに、太陽高度が高くなる暖候期になって融け出すことからも、日射の効果がわかると思います。日射エネルギーそのものに、日射によって暖められたプラスの気温と風によってもたらされる顕熱、水の相変化に伴う潜熱が主な雪氷を融解させるエネルギーです。

東側斜面には午前中に日射があたりますが、気温が上昇途中のため顕熱による融解熱量が大きくありません。ところが、西側斜面には気温が上昇した午後に日射があたり、谷を吹き上がる風も吹くので、顕熱による融解熱量が大きくなるのです。北東向きの斜面の場合は、日射も遮られる時間が長いので、さらに融解熱量が小さくなります。北アルプスに氷河が現存している谷は、雪の涵養量が大きく消耗量が少ないと言う条件に恵まれています。

山に降る雪は、なぜ、水資源として貴重なのでしょうか？

晩秋には、平地では雨の時にも、山岳地域では雪が降り出します。里山の紅葉と高標高域の真っ白な積雪のコントラストはとても綺麗です。山岳地域では、降雪量そのものが多いのですが、平地に比べて気温が低いので、冬の間に降った雪は、融けることなく長い期間そこに留まっています。その様子が「白いダム」と呼ばれる所以です。平地での年最大積雪深は2月頃に観測されることが多いのですが、山岳地域では雪が降り続け、さらになかなか融けないので、年最大積雪深が3月から4月にかけて観測されます。ゴールデンウィークの頃も、高い山では雪が降る冬山で、登るためににはそれに対応した装備が不可欠です。

春の時期には、日射量は大きくなりますが、真っ白な雪面は反射率が大きいので、雪に届く日射エネルギーは大きくなりません。高山でも気温が高くなると顕熱によって雪が融け出します。ちなみに、雪渓上で見ることのできるスプーン・カットも、気温と風による顕熱によって形成されます。融け出した雪は、川を流れ下ることになります。平地では梅雨の前はあまり雨が降りませんが、この雪融け水が田畠を潤し、雪国で渴水になることはありません。さらには、美味しい水を我々に供給してくれます。

降ってくる雪は、なぜ、空の掃除屋なのでしょうか？

空から降ってくる雪と雨などを総称して降水粒子と呼びますが、雨も出来はじめは基本的に雪です。地上が暖かいと、降ってくる途中で融けて雨になります。雲の中で雪結晶が成長するときには、氷晶核と呼ばれる微粒子に水蒸気が昇華凝結していくので、雪結晶はとても綺麗です。それがゆっくりと降ってくる途中で、大気中の塵やほこりをくっ付けます。雪や雨が降った後は、遠くまで見通せることに気づきませんか？降水粒子は空の掃除屋さんなのです。酸性の雪や雨が降ることが、世界的に問題になっているのも、化石燃料の燃焼によって大気中に放出された窒素酸化物や硫黄酸化物からなるエアロソルが、降水粒子に付着するからなのです。

（市立大町山岳博物館 館長）

戦後75年に際して 収蔵資料から見る戦時下の登山

－北アルプスに翔けた“小伝令使”伝書鳩を使った山岳通信－

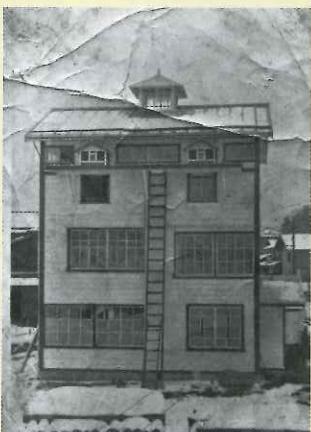
関 悟志

1945(昭和20)年8月15日、アジア・太平洋戦争は日本の降伏で終結しました。今年2020(令和2)年で、戦後75年を迎えました。

ここでは、戦後75年に際して、戦時下の登山の歴史の一端を知るとともに、平和の尊さにあらためて思いを巡らすためにも、当館で収蔵する山岳資料の中から、戦争と登山のかかわりを今に伝える資料のひとつをご紹介します。

大町駅前にあった中部山岳鳩協会

山岳遭難事故の防止と救助を目的に、伝書鳩を利用した山岳通信を構想した東京出身の三田旭夫は、1936(昭和11)年、大町に中部山岳鳩協会(以下、鳩協会)を設立しました。以後、1941(昭和16)年まで、北アルプス登山の玄関口である大町駅前で、登山者へ伝書鳩の貸し出しを行いました。



中部山岳鳩協会の鳩舎兼事務所 昭和10年代

山岳地域での鳩通信事業を北アルプス山麓ではじめるにあたり、三田旭夫は1935(昭和10)年、大町駅前に土地を借り、鳩舎兼事務所を建設しました。

現在の大町市大町仁科町、JR信濃大町駅前から北西の一角にあった鳩舎兼事務所は、木造3階建、総坪約37坪(約120m²)、白い壁とトタン屋根による洋風の建物でした。3階部分が伝書鳩を収容する鳩舎で、200羽の鳩を収容できたといいます。左の写真は、建物の鳩舎部分と飛翔運動中の鳩のようす。

軍用鳩の払い下げを受けて事業開始

昭和初め、登山者の山での通信は徒歩による伝令のほか、郵便局臨時出張所や投書箱での郵便、電報を有線電話で中継する形式の無線電話を利用するしかなく、いずれも一部の限られた場所で夏期のみ設置されるものでした。旭夫は山岳通信の普及手段として、電話線敷設や無線電信機携行などと比べ、伝書鳩を用いた鳩通信は効果的で実現性に優れていることに着目しました。

伝書鳩はカワラバト(ドバト)を改良した鳩で、その発達した帰巣能力を利用して通信を行いました。飛翔距離は3歳鳩以上で約300～1,000km、飛翔速度は分速約1kmであったといいます。大町駅前の鳩舎を中心に半径30kmを活動範囲に設定すると、上空の偏西風が追い風となる好条件もあり、北アルプス後立山連峰周辺の主だった山岳から数十分で鳩が飛翔して帰還できることから、旭夫は大町を事業地に選定しました。

こうした伝書鳩は報道通信用のほか、もとは各国の軍隊で多数利用されてきており、電話や無線と違って電力不要で機器故障の心配がなく、軽量で長距離通信も可能といった利点から、前線からの戦況伝達や偵察など軍事通信に用いられました。鳩協会の事業開始時に用意された伝書鳩



山岳通信の伝書鳩

昭和10年代

三田旭夫考案による紙製の折りたたみ式鳥カゴに収容された山岳通信の伝書鳩。

登山者はこうした鳥カゴに入れた伝書鳩を携えて山に入り、登山中、専用の便箋に連絡内容を記して筒状の通信管に収め、鳩の足に付けて山から放鳥しました。

は、当時、松本市にあった陸軍歩兵第50連隊に依頼して払い下げを受けた軍用鳩（軍鳩）でした。



軍用鳩運搬のようす 1936(昭和11)年1月

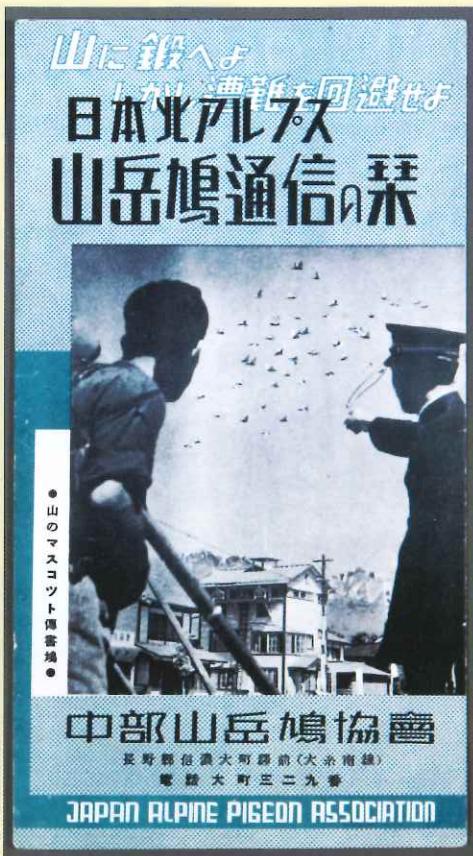
松本市の陸軍歩兵第50連隊から払い下げを受けた軍用鳩を大町の鳩協会へ運搬した際のひとコマ。人物が写された写真、右から5人目が三田旭夫。

太平洋戦争開始の年に事業撤退

鳩協会は、その事業の公共性によって長野県などから経費の補助を受けたり、軍事的な目的で軍部から技術協力の依頼を受けたりしました。さらに、山岳鳩通信を宣伝するため、「小伝令使※」と題した16mmフィルム映画の制作も行いました。しかし、事業開始の翌1937(昭和12)年に日中戦争がはじまります。戦時体制が色濃くなるにつれて山に入る登山者も減るな

鳩協会のしおり(右上)
昭和10年代 製作

広報宣伝用に作られたパンフレットです。表紙に使われている写真は、映画「小伝令使」の一場面といいます。この映画は、山岳写真家で山岳映画の先駆者として知られる塚本閑治を招いて制作され、完成後は大町や松本のほか東京でも上映されました。



戦後の試み

戦後、旭夫は大町での鳩協会の事業再開を望んでいましたが実現することはありませんでした。その後、1949(昭和24)年に「山鳩会」という組織を結成し、谷川岳で鳩通信事業をはじめますが、採算が合わず間もなく中止しました。昭和20年代後半には、長野種畜牧場やGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)主導の伝書鳩を利用した乳牛の人工授精用の精液輸送計画に協力し、北海道や伊豆諸島の新島で同様の事業を試行しますが、本格化するには至りませんでした。

先述のとおり、軍用鳩の払い下げを受けてはじまった大町での鳩協会の事業は、太平洋戦争開始の年に5年間という短期で終わりを迎きました。戦時下のひと時ではありましたが、「小伝令使」と山岳通信用の伝書鳩が北アルプスを翔けたことは、日本の登山史上に記録されるべき出来事であったといえます。

(文中、敬称略)

(市立大町山岳博物館 学芸員)

今回ご紹介した資料については、1階展示室「山と人 北アルプスと人とのかかわり」の「山岳通信－中部山岳鳩協会と三田旭夫－」展示コーナーに関連資料があります。ご来館の際にはぜひご覧ください。

博物館のひろば

学校連携授業～市内小学校～
令和2年6月10日、7月17日

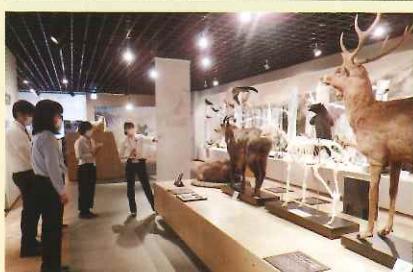


当館では市内の小学校を対象とした「学校との連携授業」を毎年開催しています。6月10日に八坂小学校の3年生、7月17日には大町南小学校の3年生が来館し、3階の展望室からは市内の土地利用などの様子、1階の人文科学系の展示室では古い道具と昔の暮らしについて、学芸員が解説しました。

来年2月まで各校が順次来館予定で、こうした社会の授業の他にも、理科の授業としてカモシカやライチョウの剥製を用いた生物の解説や岩石・鉱物・化石を利用した地質の解説も行います。

令和2年度博物館実習の受け入れを行いました

令和2年7月31日～8月5日



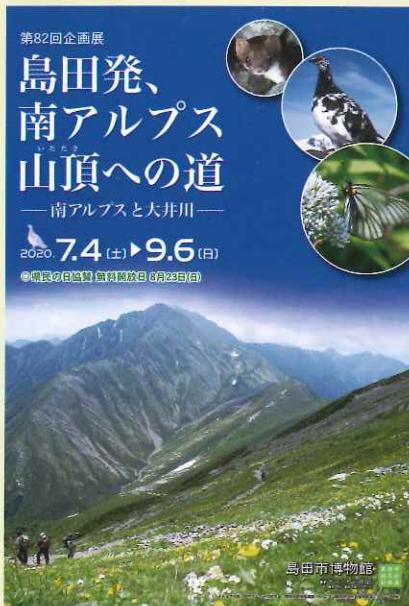
学芸員の資格取得を目指す大学生を対象とした博物館実習を行いました。当館では毎年実習生の受け入れを行っており、本年は5名の学生を受け入れました。

学芸員の指導のもと、講座を受けたり教育普及活動に参加してもらい、座学だけでは学べない博物館の業務の一部を体験してもらいました。

来年度以降も実習の受け入れを予定しており、将来学芸員を目指す学生の支援を続けていきます。

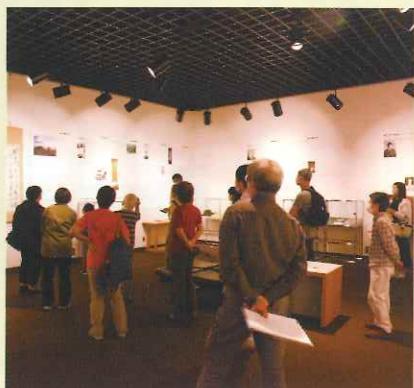
島田市博物館の企画展のために剥製を貸し出しました

令和2年6月16日



静岡県にある島田市博物館の企画展「島田発、南アルプス山頂への道－南アルプスと大井川－」において、山岳博物館の剥製が3点展示されました。

企画展「博物学と登山」
ミュージアムガイドを開催しました
令和2年7月19日、8月10日、9月26日(予定)



令和2年度の企画展「博物学と登山」にあわせ、展示内容の概要を説明するミュージアムガイドを、会期中の7・8・9月に1日ずつ開催しました。

今回の企画展では、大正登山ブームや信州理科教育のさきがけともなった明治から昭和初期の北アルプスにおける博物学と登山のかかわりを紹介し、理解・関心を深めていただく機会となりました。

八坂児童クラブにおける自然観察会に講師を派遣しました

令和2年8月4日



毎年恒例となった「さんぱくこども夏期だいがく」。今年は「一壇百駿－山のミニ科学実験教室－」と銘打って、夏休みの小学生を対象に、企画展「博物学と登山」関連催しとして開催しました。

当日は大町エネルギー博物館の上原主任学芸員が実演する実験を通して、山で起こる化学現象の謎を解き明かしました。市内小学校だけでなく、白馬村からもご参加いただき、参加した30名の子供たちからはたくさんの質問が飛び交いました。



八坂児童クラブの児童たち5名と、室内で双眼鏡の使い方を学んだ後、1時間半ほど八坂小学校周辺を歩きながら野鳥観察を行いました。

当日は予想以上に気温が上昇したことでもあったせいか、なかなか鳥が姿を現してくれませんでしたが、ツバメやホオジロ、エナガの他、アオゲラ(キツツキの仲間)など山間地ならではの野鳥の姿を観察することができました。

ライチョウ保護の取り組みについてビデオ配信を行いました
令和2年8月8日



新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止となった講演会「神の鳥・日本ライチョウ保護の取り組み」について、動画によるネット配信を行いました。クイズを多用して、ライチョウについて楽しみながら学んでいただけた内容となっています。下記URLもしくは長野県山岳総合センターのYoutubeアカウントからアクセスして、ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=Wo9IW5Mj6nl>

高山植物の植え替えを行いました
令和2年8月27日



今年も山博友の会サークル「花めぐり紀行」の皆さんにご協力いただき、高山植物の植え替え作業を行いました。今年はマスクを着用しての作業であったため、いつもの年より暑く感じられたのではないかでしょうか。

植え替えた植物は成長により順次、ポットから付属園に植え込みを行います。数年後には、種数は少ないかもしれません、山博で高山に行かなくても気軽に高山植物を観察できるようになることでしょう。

超！蝶観察会を開催しました
令和2年8月15・16日



家庭の日特別イベントとして、小学生を対象とした、蝶の観察会を開催しました。大町公園を利用して、大町市に生息する蝶を図鑑で調べながら観察し、20種類ほどの蝶が確認されました。

野外での観察後は、講堂を利用して標本の展示を行うとともに、顕微鏡を使用して羽の鱗粉の観察を行いました。また、イベントの最後には、蝶博士の認定証を授与させていただきました。

池田町立池田小学校の青木湖キャンプに学芸員を派遣しました
令和2年8月28日



毎年、パネルや実物を示しながら実施している「青木湖なぞ解きウォークラリー」を、池田町立小学校の5年生を対象に実施し、学芸員を2名派遣しました。青木湖のでき方や縄文時代の人と青木湖の関わり、周辺の動物についてクイズを解きながら学習し、最近の人と自然との関係も比較しながら考えていただく内容で、青木湖とその周辺の自然について楽しみながら理解を深めていただきました。

「この夏はさんばくで遊ぼう！」
と題して、様々なジャンルのイベントを企画しました
令和2年8月2日～18日



新型コロナウイルスの影響で短くなってしまった夏休みですが、少しでも思い出に残るものとするため、山岳博物館と付属園を活用して様々なイベントを開催しました。総勢286名の方にご参加いただきました。

普段はなかなかお見せすることができない資料を活用したイベントを行うことで、いつもと一味違う山博の魅力を発信することができました。

市立八坂中学校の生き物の痕跡調査に学芸員を派遣しました
令和2年9月4日



市立八坂中学校の総合的学習の時間に、学芸員を派遣しました。当日は八坂中学校の1年生3名と一緒に、通学路上に残された糞を調べて、どのような野生動物が生息しているのかを調べました。

ニホンザルやハクビシン、キツネなど、少なくとも合計5種類以上の哺乳類の糞の他、イノシシやカモシカなどが利用するけもの道を確認することができ、生活の身近なところで、多くの野生動物の生息を感じることができました。

付属園だより

22年ぶりのライチョウ自然繁殖の取り組み、
その結果は…?!

以前、人の手で孵化させる「人工繁殖」についてご紹介しました。今回は今年実に22年ぶりに取り組んだ自然繁殖とその結果についてご紹介いたします。

1. 自然繁殖とは

ライチョウの雛が誕生して成長するまでの、メスの行動をみてみましょう。「①オスとつがいになる②交尾をする③巣をつくる④卵を産む⑤卵を温める⑥雛が孵化する⑦雛を育てる」という流れになります。

⑤～⑦を、人の手や機械を使用することを「人工繁殖」、すべてメスに任せることを「自然繁殖」といいます。細かく分けると、⑤は自然抱卵、⑥は自然孵化、⑦自然育雛と呼ばれます。



2. なぜ自然繁殖をするの??

人工繁殖では、機械で卵を温めたり、清潔な環境で飼育ができたりと、安定な環境条件が簡単に作れます。そのため、昨年まではこの方法で繁殖を行い、ライチョウを増やすことに成功してきました。

しかし、将来的に野生復帰を目指すためには、より自然に近い方法で繁殖することが望ましく、ステップアップとして今回自然繁殖を行うことになりました。

3. 結果は…?

さて、気になる今年の結果です。すでにニュースなどでご覧の方も多いかと思いますが、受精卵を得ることはできましたが、残念ながら孵化することはませんでした。しかし、自然抱卵が見られたのは、実に22年ぶりのことでした。(孵化に至らなかった原因は調査中です。)

残念な結果となりましたが、今回の結果をしっかりと検証し、次年度以降の繁殖に活かしていきます。

自然抱卵の様子



展示・イベントのご案内

企画展

雪が織りなす物語

北アルプスに大量の雪を降らせる気象条件と地理的な位置をご紹介します。降雪・積雪から融雪に至る過程を解き明かし、山と水に恵まれた大町の特徴である雪にまつわる物語を紡いでいきます。

■会期 10月3日(土)～
1月17日(日)

■会場 山岳博物館1階 特別展示室
■観覧料 通常観覧料。

企画展ミュージアムガイド

担当者が展示の内容について解説します。

■開催期日 10月4日(日)、10月18日(日)、12月19・20日(土・日)、1月17日(日)

■開催時間 ①10時30分～
②14時30分～

※所要時間は20分程度、いずれも同じ内容です。

■会場 山岳博物館1階 特別展示室

■申し込み 不要。当日直接ご参加ください。

■参加費 通常観覧料。ただし、家庭の日とその前日の該当日は、大町市民は無料。長野県民は割引料金。

さんぱくゼミナール 「雪が織りなす物語」

雪の研究者である鈴木館長が、雪が織りなす物語を紡いでいきます。

■開催期日 11月15日(日)

■開催時間 13時30分～14時30分

■会場 山岳博物館 講堂

■定員 先着50名

■申し込み 事前に博物館へお申し込みください。

■参加費 無料。ただし、企画展の見学は通常観覧料が必要です。